

## 令和4年度 特別の教育課程の編成の方針について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立鹿島小学校（外 11校）	鹿嶋市教育委員会	公立

### 1. 特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

2007年4月

2018年4月 変更

\*取組の期間

2030年4月まで

### 2. 特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実が我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

### 3. 地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

#### 4. 実施の効果、課題および方向性

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

本校の学校組織目標として「表現力の向上」を掲げ、全教科で児童の思いや考えを引き出し、主体的・対話的な学びのある授業を推進してきた。低学年の外国語活動においては、児童にとって日本語で慣れ親しんでいる身近な内容の単語や表現を英語で学ぶことにより、多くの児童は意味を理解しながら聞いたり話したりすることができている。また聞こえた英語を手本として、同じように発音することができるので、より英語らしい発音で話すことができている児童も多い。

その結果、「外国語活動の時間を楽しい(どちらかという楽しいを含む)」と感じている児童は、1年生では97.4%、2年生では97.8%となった。また、「英語を話せるようになりたい(どちらかという話せるようになりたいを含む)」と思っている児童は、1年生では100%、2年生では94.8%となった。英語を使って自分の気持ちを表現できると実感していることが分かる。

課題としては、相づちやつなぎ言葉、ジェスチャーなどを用いて、英語でコミュニケーションを図る楽しさをより味わえるように工夫することである。低学年のうちに、ノンバーバルな部分(アイコンタクトや動作など)についてしっかりと指導しておくことで、高学年の外国語科の学習でも活用していきたい。

##### (2) 課題の改善のための取組の方向性

昨年度の課題は、「スピーキング力」の向上であった。「目的・場面・状況」を明確にしたスピーキングテストを毎単元の最後に計画的に実施したため、相手を意識した内容を考えたり、表現(表情、アイコンタクト、声量、ジェスチャー、反応など)したりする力が身に付いてきた。一方、6年生が受検した英検トライアルでは、昨年度に比べてリスニングが11ポイント、リーディングが18ポイント下回った。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

リスニング力の向上のために、クラスルームイングリッシュの使用を徹底し、英語の授業内で聞く英語量を増やし、英語を聞く耳を育てる。教師が投げかけてキーワードとなる語句や表現を聞き取る活動を取り入れ、わからない部分があっても、少し長めの話の聞き続ける姿勢を育成していきたい。

リーディング力の向上のために、文字と音の間のルールを取り入れた読み書き指導を実施し、文字を見て単語の発音を連想し単語を読んだり、音を聞いて、単語を当て単語とマッチングさせたりする。知らない単語に出会っても、これまでの学びを生かして読むことを諦めない姿勢を育成していきたい。